

令和4年度第2回館林市子ども・子育て会議 議事録【概要】

1 日 時 令和5年2月15日（水）午後3時～午後4時30分

2 場 所 館林市役所研修室

3 出席者

【館林市子ども・子育て会議委員】 15名

森会長、坂本副会長、中村委員、角田委員、平田委員、山本委員、原委員、
鎌田委員、小暮委員、饗庭委員、田端委員、荒木委員、平林委員（以上名簿順）

※大野委員、三田委員欠席

【市】16名

こども局 : 松村局長

健康推進課 : 野澤課長、島田母子保健係長

子育て支援課 : 奥澤課長、妻神こども相談係長、石田

こども課 : 木村課長、浅海幼保運営係長、前原幼保支援係長、石井係長代理
熊田児童センター長

教育総務課 : 武井課長、折原総括係長

生涯学習課 : 廣澤課長、石井青少年係長

学校教育課 : 井戸課長

【傍聴者】 なし

4 議 事

(1) 館林市子ども・子育て支援事業計画中間見直しについて

(2) 令和5年度教育・保育施設の利用定員について

(3) その他

5 配付資料

・会議次第

・委員名簿

・資料1 館林市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

・資料2 第2期館林市子ども・子育て支援事業計画中間見直しについて

・資料3 令和5年度教育・保育施設の利用定員について

・館林市子ども・子育て会議条例

・幼稚園、保育園、認定こども園目的別一覧（森会長より追加配付）

6 会議内容（概要）

(1) 開 会

(2) あいさつ（会長）

(3) 新委員自己紹介

(4) 議 事

ア 館林市子ども・子育て支援事業計画中間見直しについて

（会長）

資料2には、9月21日の会議の質疑についての回答が差し込まれて内容が変わっていることを報告したい。これから中間見直しについて皆さんにもう一度語りたい。事務局より変更の部分に関して改めて説明してもらう。

（事務局）

・全体の説明後、見直し後変更となった事業関係課より説明：

1号認定の利用を希望する保護者の減少及び2・3号認定の利用を希望する保護者の減少はないが、子どもの人数が減少しているため、令和5年度からの公立幼稚園の認定こども園化に合わせ、確保方策（定員）を見直し変更する。地域子育て支援拠点事業は、公立幼稚園の認定こども園化により5か所から4か所に変更するもの。乳幼児全戸訪問事業は、量の見込み及び確保方策値を実績に合わせて変更する。放課後児童健全育成事業は、確保方策（定員）、実施か所数、子ども教室との一体型から連携型に変更するもの。放課後こども教室の主な変更点は、当初計画では令和6年度までに3校区の開設を予定していたが、3校区区目の第十小学校が前倒しで令和4年度に実施できたため計画の数字を変えた。

【質疑応答】

会 長：国の管轄省庁と子どもの年齢、親の対応に応じ幼稚園と保育園に1号2号3号の区分で、市が子どもたちを区分認定している。認定こども園は、幼稚園と保育園の機能目的を両方持ち合わせていて、幼稚園と保育園の子どもたちが両方いてよい場所となる。国の認定こども園構想にシフトしてきていて館林市も両方利用できるような認定こども園へ進めていきたい。放課後児童健全育成事業と放課後子ども教室は、プラスに転じている。館林市の中に子どもたちが、きちんと自分を守ってくれる大人に巡り合うことが非常に重要である。この子育て支援の状況に合わせて皆さんの意見をいただき、この中間見直し案について、もう少し聞いてみたいところや質疑があるか伺いたい。

- 委員：放課後子ども教室との一体型から連携型に修正することについて、具体的にどのような連携をやろうとしているのか説明してほしい。放課後子ども教室では、令和6年度に3か所の目標を4か所にあげてもらい大変ありがたいが、なぜ館林市ではなかなか学校の空き教室を利用して実施出来ないのか理由を聞きたい。また、実際に月2回程度の実施と認識しているが、毎日できない理由を聞きたい。
- 市：学童に通う子と子ども教室に通う子が同じような取り組みができないか、何か連携できないか取り組んでいきたいと考えている。現段階で明確なものはないが、現状の状況を確認しながら考えていきたい。
- 市：2回程度の実施とのご質問について、放課後子ども教室は学童クラブとの連携により子どもたちの居場所を確保していくという位置づけにある。館林市の場合、文科省の提案している制度に則り、地域住民が中心となり開催しているため毎日開催のかたちは難しいと考えている。学校の空き教室についても同様で、11か所の公民館の利用団体が中心となり教えてもらっているため、学校の空き教室も非常に魅力的だが今の3か所の放課後子ども教室は公民館の講堂を使っている。
- 会長：学校と居場所づくりの場所が同じというのは子どもにとって切り替わりが難しい。家庭的な居場所は子どもの発達の中で大事だと感じていて、学校を利用すれば安全ではあるが、館林市の子どもたちに合う形は何か検討すると良いかと思う。
- 副会長：3ページで基本的なことを聞きたい。太枠が変更となっているが②確保方策から①量の見込みを引くとマイナスになってしまう。定員が足らなくなるのはどうなのかと疑問がある。
- 市：当初計画を立てたときの量の見込みはニーズ調査で叩き出した数字となっているが、令和2年度、令和3年度の実績の数字をご覧いただくと、当初の予定よりだいぶ減ってきていて、今後さらに減っていくと見込まれる。この見直しの数字だとマイナスになっているが、実績値から見ていくとマイナスにならず収まると考えている。
- 副会長：マイナスになっているが、実績値から考えればプラスに転じるだろうという考えか。もし、そのままマイナスになってしまった場合はどうなるのか。
- 市：実際には定員より多く預かることも出来ないわけではない。どこかの園で預かりができれば、入ることも可能。
- 副会長：必ずマイナスにならないように、できる限りしていくということなのか。

計画で最初からマイナスにしておく必要があるのか。普通は計画なら量の見込みよりも多く作っておくのではないのかなと思った。

会 長 : 計算ではそのような数字になってしまうが弾力的運用を考えるとということ保護者の希望に合わせて動いてくれるということで良いか。

市 : この量の見込みは、ニーズ調査を計画策定の際に行い子育て世帯から取りまとめて、この数字を出し計画としたものである。ここのところの変更がニーズ調査をやることができないため変更できない。

会 長 : 中間見直しの案について今の説明で了承いただけるようであれば拍手で了承をお願いしたい。

会 長 : ご了承いただきありがたい。これをしっかりと守って、館林市の子どもたちに良い環境を作ってもらえるとありがたい。

イ 令和5年度教育・保育施設の利用定員について

・関係課より説明:

前回の会議で、令和5年度より認定こども園化される3施設の利用定員の設定について説明させてもらったが、今回は私立保育園1園の申出によるものと、公立保育園4園では令和5年度の入園状況から、利用定員を減少させる旨を追加して説明。

【質疑応答】

委 員 : 定員を減らすことによって良いことがあるのか分からない。認定こども園になることで数字が変わってくることは分かるが、他を減らすことで何が起こるのか分からないので教えてほしい。また減らしたことで移住者や家庭の事情で使うことになった人たちが不利益を得ないのかお伺いしたい。

市 : 一点目の定員を減らすことで何か良いことがあるのかというご質問だが、公立施設を絞ることで私立に子どもたちが入ることになり、私立の園の良い運営ができるようになる。また、私立では毎月払われる国県市からの給付金が、定員が下がれば下がるほど単価が上がる仕組みになっているため、子どもの入る数が少ないのであれば定員を下げた方が単価は上がって運営費が入ってくることになる。二点目の質問の説明として、減らした分についても今いる子どもの数にぴったり合わせたわけではなく、年間大体どれくらいの子が入るか把握しており、子どもたちが入れるある程度の枠は残した上で減らしている。

会 長 : 弾力的運用は嬉しい。館林市が豊かになっていき子どもにとっても豊かに

なることだから、このような施策はやってもらえるだろうと思う。

委員：今の説明で良いことは分かったが、定員を減らした後、数年後に増やすことは可能なのか。

市：認可定員の下にある利用定員を今回減らすだけなので、認可定員までは、また戻すことが可能。

会長：疑問を持った時は質問して承知しておくことが重要だと思う。こうしたら館林市にとって良いのではという様々な視点を持ってもらいたいと思う。

委員：幼稚園や保育園の違いも分かっていない状況や、実際の運営に関しての知識も全くないので、今日のいろいろな意見を含め勉強したい。

委員：放課後子ども教室については相当論議してきて、行政のかたが努力してくれているのは評価したいと思うが、もう少し深掘して取り組まないと意味が弱くなってしまふことがあり得る。もう少し言いたいことを話せる場があれば、より充実した子ども・子育て会議になるのではないかと思った。

委員：皆さんのご意見を聞いて、もう少しわかりやすく市民の方に伝えなければいけないと強く思った。今日の会議について園に持ち帰り園長等に報告したいと思う。

委員：4月からいよいよこども園がはじまるため現在準備を進めている。これから、より職員と協力し合っけて子どもたちが安心して楽しく過ごしていけるようにしていくことが大事になると強く思っている。

委員：放課後子ども教室の話があったが、子どもたちの実態として学童には行っていない子や、きょうだいで一緒に帰るまでの隙間の時間で何かできないか、学校や地域で何かできないかなど考えている。

委員：今年から館林市にこども局ができた。今年度は全面をもってこども局の保育施策に協力してきたつもり。

委員：この会議は自分たちが預かっている子どもたちのことなんだと毎回感じていて、今後も子どもたちを大切に預かりながら試行錯誤して頑張っていかなければと思う。

委員：北こども園、東こども園と同じように南もこども園になるかと思うが、子どもたちにとって、また保護者の皆さんにとって良かったと思ってもらえるように、ぜひ変わってもらえることが一番大切かと思う。

委員：ボランティア活動している中で、子育てをしているお母さんたちに話を聞くことが大事だと感じた。放課後児童健全育成事業のところで一体型から連携型クラブに見直し、これからあり方を話し合うということだが、現場

の方々の意見を吸い上げて考えてもらえると良いと思う。

委員：学童クラブや放課後子ども教室を充実していければなと思っていて今後も進めていってほしいと思った。

委員：私自身にプラスになるような意見や知恵をいただきありがたい会議になっているなど感じている。私の周りの方々に、このような事業についていろいろ考え成り立っているんだということを伝えていきたいと思っている。

副会長：自分たちが疑問に思うことや各団体から出てきた意見を事務局に伝えていくことが子ども・子育て会議委員としての役目だと思う。教育は質が大事だと思っている。今後認定こども園になると職員の採用はどのようになっていくのか。応募状況等を公表できるようになったら教えてもらえるとありがたい。目指す人が多い方が良い人材が集まるのかなと思っている。

会長：今の意見はとても大事だと思う。国も非常にたくさん研修をしているようだ。また、認定こども園の場合は両方の資格を持っていないと採用されることがないので、ご心配されているようなことはないと思う。

委員の皆さんの意見や感想、提案等々受け止めさせていただいた思いである。皆様のご協力に感謝したいと思う。

(5) 閉会

市：ご承認いただいた計画の見直し内容は、この後県に報告する。皆様の感想や意見をいただき、これから取り組むべき課題等も見えてくると受け止めた。今年度こども局という体制となり、来年度以降の保育園・幼稚園の両面を持っている職員募集をしているが、競争率は非常に少ないと感じている。来年度は子育て中の保護者の方を中心にニーズ調査を実施する予定。ニーズ調査後6年度に第3期計画書の策定になる。また委員の皆様にご協力いただきたいと思う。